

新しい文化を築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」と十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏の常設展示をメインとし、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

◆第1次展示 H2.7 - H3.6

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田島樹人 (1885-1959)	気品に富んだ作曲家	(花輪)
関直右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

◆第2次展示 H3.7 - H4.6

小田島由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花輪)
浅井 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大湯)
田村 徳治 (1886-1958)	日本行政学の創設者	(花輪)
大里武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花輪)
渡部 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

◆第3次展示 H4.7 - H5.7

阿部 恭助 (1886-1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山弟四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花輪)
諫訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大湯)

◆第4次展示 H5.8 - H6.7

田中 北嶺 (1838-1918)	「戊辰役図絵」を描く	(毛馬内)
坂田 祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大湯)
大里 周蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化人・医師	(花輪)
栗山文次郎 (1886-1965)	かづの古代薬、柴根染の大家	(花輪)
高杉重右衛門 (1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

◆第5次展示 H6.8 - H7.9

浅利 佐助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花輪)
宮城佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花輪)
伊藤 良三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林平 (1888-1918)	将来を嘱望された天才数学者	(毛馬内)
阿部 貞一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)

◆第6次展示 H7.10 - H8.9

児玉 高慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花輪)
阿部 六郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花輪)

◆第7次展示 H9.10 - H10.9

内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅原真澄の研究	(八幡平)
豊口鏡太郎 (1873-1952)	秋田県の教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 靈山 (1882-1945)	スケールの大きい氣骨の書家	(毛馬内)

◆第8次展示 H11.11 - H12.10

高橋 克三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)
-------------------	-----------------	-------

◆第9次展示 H12.11 - H13.11

黒沢 隆朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花輪)
大里 健治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

◆第10次展示 H13.12 - H14.11

石田 収蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花輪)
-------------------	------------	------

◆第11次展示 H14.12 - H15.11

石川 伍一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)
-------------------	----------	-------

◆第12次展示 H15.12 - H16.11

小松 五平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大湯)
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花輪)

◆第13次展示 H16.12 - H17.11

相川善一郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花輪)
馬淵テフ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

◆第14次展示 H17.12 - H18.11

川口 月嶺 (1811-1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花輪)
泉澤 織太 (1777-1840)	・牧太 (1778-1855) ・恭助 (1806-1870) 学問のお師匠様泉澤家	(毛馬内)

◆第15次展示 H18.12 - H19.11

佐藤要之助 (1859-1892)	・良太郎 (1878-1912)	(花輪)
佐藤 良雄 (1906-1977)	鹿角りんごの礎を築いた父子 カザルスのチエロを日本に広めた	(花輪)

◆第16次展示 H19.12 - H20.11

小田島艸子 (1882-1969)	花輪俳諺会を創立	(花輪)
鎌田 露山 (1891-1966)	毛馬内俳句会を設立	(毛馬内)

◆第17次展示 H20.12 - H21.11

山先 青山家の人々	青山の名を高めた青山庄蔵栄重	(尾去沢)
山先 川口家の人々	欧米の採鉱技術を学んだ 川口理伸太	(尾去沢)

◆第18次展示 H21.12 - H22.11

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の開拓者	(毛馬内)
-------------------	-----------	-------

◆第19次展示 H23.3 - H24.3

先人顕彰回顧展	浅利佐助他パネル展示
---------	------------

◆第20次展示 H24.10 - H25.3

和井内貞行「没後90年展」	十和田湖開発の父	(毛馬内)
---------------	----------	-------

◆第21次展示 H25.6 - H25.12

柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわられた若き画家	(毛馬内)
-------------------	---------------	-------

◆第22次展示 H26.8 - H27.6

内藤湖南「没後80年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)
--------------	----------	-------

◆第23次展示 H27.6 - H28.3

畠山文象遺墨展	書道の発展に寄与	(毛馬内)
---------	----------	-------

◆第24次展示 H28.4 - H29.3

内藤湖南「生誕150年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)
---------------	----------	-------

◆第25次展示 H29.4 - H30.3

岩館 知義 (1925-2016)	郷土鹿角が生んだ風景画の詩人	(大湯)
松岡 隆一 (1924		

そうま だいさく 相馬大作事件と鹿角

令和3年度の展示は、ちょうど200年前に勃発した「相馬大作事件」の首謀者相馬大作と門人関良助の2人の人物を取り上げます。

相馬大作事件とは、江戸時代末期の文政4年（1821）4月23日、盛岡藩の相馬大作が、門人関良助他数人と秋田藩領白沢（大館市）付近で、参勤交代から帰る津軽藩主を要撃（待ち伏せして襲う）しようとして失敗した事件です。大作は、計画を立てるに当たり、鹿角を拠点に情報収集に努めました。彼らが潜伏した跡は、八幡平・花輪・大湯・毛馬内・小坂の各地に残っています。この事件に加担した門人の関良助と、地理案内を担った伊勢屋市兵衛は花輪の人でした。この事件には、津軽と南部の永年の確執だけでなくロシアの蝦夷地（北海道）接近という国難の中で起こった、既存の体制に対する抵抗という一面もありました。



『相馬大作のすべて』より
平成元年十一月一日
二戸教育委員会発行

義士と評された 「相馬大作事件」の首謀者

Daisaku Souma
相馬 大作 1789-1822 (二戸)
そうま だいさく

大作は本名を下斗米秀之進といい、二戸郡福岡村（現・岩手県二戸市）に生まれた。下斗米家は福岡御給人で、本姓は相馬、元祖は相馬小次郎と称した平将門である。

18歳で江戸に出た秀之進は、名剣士と評判の紀州藩士平山行蔵の門人となり武道に精進、四天王と呼ばれるまでに腕を上げて帰郷した。やがて師の考え方を受け継ぐ「北方防備」の任を遂行する人材育成の道場（兵聖閣）を開く。多くの入門者を抱えた兵聖閣は、盛岡藩主利敬の支援を受けたという。

文政3年亡き藩主への報恩忘れ難く、津軽藩への積年の鬱憤から津軽藩主要撃を計画、鹿角郡内で情報収集に努める。翌年4月参勤交代途中の津軽藩主を大館白沢付近で待ち伏せるが、事前に計画が漏れて失敗。江戸へ逃れ、相馬大作と名乗る。同年10月捕縛、翌年8月門人関良助と共に処刑される。しかし、仇討ちにも似たこの事件は江戸で大いにもてはやされ、尊皇攘夷論者にも強い影響を与えたといわれる。

略歴 a brief personal record

寛政元年（1789）

福岡御給人で豪商の二代下斗米宗兵衛の次男として二戸郡福岡村に生まれる。幼名を来助、通称名を秀之進、実名を將真と称した。

文化3年（1806）

18歳で江戸にて、武芸の達人と評判の紀州藩士平山行蔵の門人となる。

文化11年（1814）

郷里に帰り、土蔵を改修して北方防備の為の人材育成の道場を開く。

文政元年（1818）

道場（兵聖閣）を新築する。

文政4年（1821）

4月23日、要撃を企て、大館白沢付近で津軽藩主一行を待ち伏せるが、計画が事前に漏れて失敗。

5月12日、関良助らと江戸へ逃れ、相馬大作と名乗る。

10月6日、江戸で幕吏に捕縛される。

文政5年（1822）

8月29日、関良助と共に小塙原で処刑される。

大作と行動を共にした 義勇士で剣の達人

Ryosuke Seki
関 良助 1800-1822 (花輪)
せき りょうすけ

良助は、寛政12年、山口流剣術指南の（小田島改め）関右平太の長子として花輪に生まれた。生来、性は愚直、義に厚く、骨格に優れて武を好む少年であった。17歳の時、乞われて父の生家淨法寺の関与茂助の養子となる。淨法寺関家は、福岡御給人で盛岡藩士の家格であった。

文化13年9月、江戸から郷里福岡に帰って道場を開いていた下斗米秀之進（相馬大作）の門人となる。良助は、ここで武を秀之進に学び、文を田中館康政に学んだという。身長六尺余り、威風堂々とした体躯の良助は、道場でめきめき頭角を現し、秀之進の片腕と言われるまでになり、以後終始秀之進と行動を共にした。

文政4年4月、津軽藩主要撃に参加するが、計画が事前に漏れて失敗、江戸へ逃れる。同年10月捕らえられ、翌年8月相馬大作と共に処刑された。時に23歳になったばかりであった。

略歴 a brief personal record

寛政12年（1800） 花輪御給人（小田島改め）関右平太と福岡御給人原田源右衛門女トヨの長男として花輪に生まれる。右平太が養子となった小田島家は代々「大和屋」と称した酒造家である。

文化13年（1816） 身体頑健、容姿猛々しいのを見込まれ、父の生家二戸郡淨法寺の関与茂助（一説に与茂七）の養子となる。

9月、下斗米秀之進（相馬大作）の道場の門人となり、文武に励む。上達著しく、秀之進の片腕と目される。

文政4年（1821） 4月23日、（秀之進改め）大作と門人ら数人で大館白沢付近に潜み、津軽藩主を要撃しようとして失敗。大作と共に数人で江戸へ逃れる。

10月、江戸で幕吏に捕縛される。

8月29日、首謀者相馬大作と共に小塙原で処刑される。

相馬大作肖像画